

# 『希望の火』を常灯する平和パゴダの建設

すべての人類の祈りを込めて、  
いく、世界にたったひとつの火、  
この『希望の火』を常灯し、  
望む人はいくつでも『希望の火』  
に触れていた方がいい。これを  
、長野県松本市内の浄土宗和  
田寺の敷地に、セルフレッドで  
建設中です。

この建設資金を広く募るため、4月からクラウドファンディングに挑戦しました。  
結果、7月までに目標金額を超えた120万円を達成。  
たくさんの方から温かい応援、ご支援を賜りました。



## 平和パゴダ庭園建設スタート。

9月末から工事を着工し、整地・基礎作りを行いました。  
建設ボランティアを募集したところ、20数名もの有志が集まりました。  
10月には、ボランティアの方々と共に汗を流し、アースバッグ工法で建物を作りました。  
多くの方の支えにより、心もった平和モニメントが出来てきています。



## 8月6日『希望の火』に祈り 檀王法林寺

仏教、キリスト教など、宗教宗派を超えた、京都宗教学者平和協議会主催の『平和の集い』(art 浄土宗檀王法林寺)に『希望の火』を携え参加しました。  
理事長の宮城泰年殿下(聖護院門跡)に、『原爆の残り火』を吹き消していただき、参列者とともに『希望の火』に平和への祈りを込めていただきました。



## 京滋キリスト者平和の会 「平和の夕べ」平和礼拝

8月10日、第12回「平和の夕べ」に参加。日本キリスト教団・伏見教会に宗教者、市民約30名が集まりました。  
核兵器廃絶を願って、榎本栄次牧師による「原爆の残り火」の吹き消し。また、『希望の火』を献灯し、アースキャラン代表・遠藤暁及住職(浄土宗和田寺)などによる平和スピーチがありました。  
参列者ひとりひとりが花を捧げ、ともに平和を考え、祈るひとときとなりました。

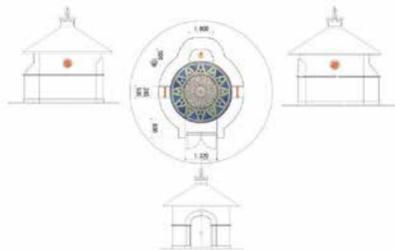


August 10, 2020

## 世界中で、『希望の火』セタキヤンドルナイト

「コナウイルスアメリカでのBlack Lives Matter」のデモなど、世界中で様々な分断が起きていた7月7日、浄土宗祐正寺(京都市)にて、『希望の火』セタキヤンドルナイトを実施しました。

昨年3月にパチカンでローマ教皇にしていたのと同じように、五島副住職に過去の火(原爆の残り火)を吹き消していただいたあと、参加者全員で『希望の火』に世界の平和への願いを込めました。  
七夕は彦星と織姫が出会う日。対するものが一つに融合する日。  
世界中にある様々な差別や対立を乗り越え、平和な世界になることを願い、イスラエル、カナダ、オランダ、オーストリア、イタリア、長崎、広島、東京でも、『希望の火』に祈りが込められました。



## ステンドグラス窓を、オーストリアの修道院で製作。

平和パゴダの窓のステンドグラスは、世界的アーティスト、Beate Schreiter-Radelさんのオリジナル・デザインです。  
オーストリアのシラーバハ修道院のガラス工房で、丹念に制作されました。



オーストリアのシラーバハ修道院ガラス工房にて Beate Schreiter-Radel さん (右)



パゴダの壁と屋根は、地球を象徴し、内部空間は瞑想と癒しのスペースです。  
庭園には、広島島の被爆樹や、世界各地の花やハーブなどが植えられます。  
訪れる人々は、その平安な雰囲気の中で、『希望の火』に込められた世界中の人々の祈りの平和と癒しのエネルギーを体感することができます。2021年秋、完成予定です。

### Making Pagoda

START!! <<<

01. 整地作業
02. 基礎作り
03. アースバッグで壁作り
04. 屋根作り
05. 建具作り
06. 庭作り
07. 『希望の火』オブジェ作り

**TO BE CONTINUED!!**

『希望の火』を常灯するためのパゴダ庭園建設はこれからも続きます。皆さまのご協力、温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 「メディアアッて。。。」

作・ミロク



## 『希望の火』キャンドルナイト 正泉寺

7月13日、真宗大谷派正泉寺(大阪府南河内郡)でも、うきうきの澄んだ声が響きわたる中、『希望の火』キャンドルナイトを開催しました。  
昼間は、タオ療法の無料施術会。受けに来られた町の方たちからは、多くの喜びの声が上りました。

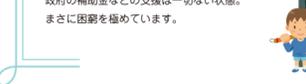
七夕からは、色とりどりのキャンドルで「HAPPY」と「HOPE」の灯が美しく浮かび上がりました。そして集まられたみなさんと共に、平和への祈りの時間を共有しました。場は、温かな空気に包まれていました。



### 編集後記

2020年に入ってから、新型コロナウイルスの騒動により、世界中が大混乱に陥りました。家から出られない、会いたい人に会えない、行きたいところへ行けない、外へ出られる時間が制限されるなど、ロックダウンの名の下、世界の各地で、様々な自由が制限されました。  
その様子を、「あたかも世界中がパレスチナになったようだ」という人もいました。  
パレスチナはコロナ騒動により、さらに厳しい状況に陥りました。物資の移動もなくなり、変遷しているアババ村でも明日食べるパンもないという状態。そんな中、パレスチナ・ピリン村の写真家からも、メッセージをいただきました。  
彼の村では、毎週のように非暴力の抗議運動をされていました。しかし、コロナにより、今やパレスチナ自治政府からも、土地を奪うイスラエルに抗議運動をすることが許されなくなりました。彼は、自分の信念を貫く道を失いました。  
小さな村ピリンでは仕事もなく、近隣の街に出ても、失業者で溢れかえっています。物価は先進国と同じくらい高く、パレスチナ自治政府の補助金などの支援は一切ない状態。まさに困窮を極めています。

一方イスラエルではまだ仕事があります。このため、彼の村の人たちの中には、仕事を求めてイスラエルに行き、生活の糧を稼ぐ人もいます。  
ここで大きな格差が生まれます。持ち主と持たざる者.....ここでイスラエル側に働きに出ている人は、迷惑極まりない存在となります。今まで友人だった人たちが離れていき、親戚からも白眼視され、孤立無援の状態.....生きる希望を見失っている人たちがいます。  
そんな中、日本でパレスチナの写真展が開催されることは、彼らにとって大きな励みになっているそうです。「遠く離れた日本から、心を寄せている人たちがいる。」それだけでも自由を制限され、生きる目的を失っている人たちに、希望を与えられる。それは、私たちにとっても大きな希望となりました。  
世界中で平和への祈りを込め続ける『希望の火』。2021年、一人でも多くの子どもたち、すべての人々の心が明るい希望で満たされる世界になるよう、活動を続けてまいります。



- 1 人種、宗教、国籍、思想信条などを超えて人が出会い、絆を深め、お互いの文化を分かち合うこと。
- 2 地球に生きるすべての人に「与え合い」の心が生まれ、戦争、紛争、貧困のない平和な世界が実現されること。
- 3 子どもたちの心に『希望の火』が灯り、世界が変わること。

アースキャラバンは、以上を目的に、これからも活動を続けます。

支援する

NPO 法人マンスリー会員になって支援

私たちにできることは、関心を持ち、心を通わせ、支援を長く続けていくこと。  
この活動は、会員の方々の支援により成り立っています。本会の趣旨に賛同していただける個人、または団体であれば、どなたでもご入会いただけます。  
ひと月のワンコインが大きなサポートになります。

マンスリー会員 一口 500 円 / 月  
(何日でも可能です。)

ビレッジサポーター  
(子どもを含む村全体の里親支援) になって支援

教育を受けたいと願うすべての子どもにも教育の機会をつくりたい。  
両親、あるいは片親のいない子どもを通じて、村の里親 (ビレッジサポーター) としてご支援いただける方。  
子どもたちが夢に挑戦できるよう、みなさまのご支援お待ちしております。

【支援金】 一口 1,000 円 / 月より  
(別途 NPO 会費: 500 円 / 月)

寄付で支援

ゆうちょ銀行  
口座番号 00950-8-192701  
口座名 特定非営利活動法人アースキャラバン



会員のご案内



NPO 法人アースキャラバン

〒605-0089 京都府京都市東山区古門前通大和路東入元町 367-2 TEL/FAX: 075-551-2770  
東京事務局 〒165-0027 東京都中野区野方 1-5-11 TEL: 03-3385-7558  
E-mail: info@earthcaravan.jp URL: www.earth-caravan.com



皆の心の中から燃え立った  
まばゆい希望...



テーマ詩 「FLAME OF HOPE」

WRITTEN BY CHRIS MOSDELL



ロックダウンし孤立状態におかれた  
パレスチナ・アカバ村への緊急支援。

ヨルダン渓谷の中心に位置するパレスチナのアカバ村。ここは、イスラエル政府によって、給水が遮断されています。またコロナ禍によって、村にある2つの工場は閉鎖。水や電気などのライフラインが、いつ途絶えるかもしれない状況です。村の60家族の状況は悪化し、パンや飲み水すら入手困難になっていました。  
アースキャラバンは、ハッジ・サミ村長の緊急要請を受け、2020年4月、5月、6月の3ヶ月間毎月1500ドルを支援しました。  
ハッジ・サミ村長はまた幼い頃、イスラエル兵によって被弾。以来、車椅子の生活を余儀なくされています。しかしリーダーシップを発揮して村を回結させ、高品質な乳製品やお茶を生産し、持続可能なフェアトレードを確立。魅力的な村として発展させました。  
村人たちがこれからも前進していけるよう、真の幸福を得られるよう願っています。



広島、長崎被爆75年式典に『希望の火』  
オランダ・アルメロー市

8月6日、オランダ国内各地で記念イベントが行われました。アースキャラバンは、『希望の火』を携えて、オランダ東部アルメロー市のイベントに参加しました。  
ヘリツェン市長に、ヨーロッパの市長として、はじめに原爆の残り火を吹き消していただき、また『希望の火』に、平和の祈りを込めて頂きました。  
市長からは、『希望の火』が私たちの世代だけでなく、私たちの子どもたち、またその子どもたちの平和の象徴として、受け継がれることを祈ります。』とのメッセージを頂きました。  
この日は、式典が行われた市立図書館で開催された「被爆核廃絶運動の75年」写真展の初日でした。  
また、広島にある原爆の像のモデルにもなった、佐々木禎子さんの折鶴の話も



また市長、企画チームの皆さんの『希望の火』への共感も深く、平和への祈りと行動は世界を融合させることを、あらためて感じました！  
伝えられました。そして、この日のために企画チームの皆さんが平和への思いを込めて折った折り鶴。これらが、美しく飾られていました。  
被爆を、遠い国の音の出来事としてではなく、わがこと、世界全体の問題として捉えていることが感じられた記念式典でした。



役員含め全員ボランティアの KOOK 財団。  
9月5日、中古品販売店で働くボランティアの方々に  
お茶をふるまうかたがた、お礼を込めて  
アースキャラバンの活動を紹介しました。



アルクマール市 (オランダ) の街に、  
「カリヨンの鐘」による「SHARE!」が  
鳴り響きました!

今年も9月19日から27日まで、オランダ平和週間が開かれました。今年のテーマは「平和は違いを超えて絆を結ぶ」。アースキャラバンは昨年からの企画チーム「平和大使館」の一員として参加しています。  
19日、平和週間の始まりを告げる平和ソングが、オランダの伝統的な「カリヨンの鐘」によって演奏されました。その時、「フイマジン」などと共に、アースキャラバンのテーマソング「シェア!」が全市に響き渡りました！  
今年も9月19日から27日まで、オランダ平和週間が開かれました。今年のテーマは「平和は違いを超えて絆を結ぶ」。アースキャラバンは昨年からの企画チーム「平和大使館」の一員として参加しています。  
19日、平和週間の始まりを告げる平和ソングが、オランダの伝統的な「カリヨンの鐘」によって演奏されました。その時、「フイマジン」などと共に、アースキャラバンのテーマソング「シェア!」が全市に響き渡りました！

午後オープニングでは、世界を一つにする「希望の火プロジェクト」について伝えられました。  
その後、副市長による「原爆の残り火」の吹き消しと、『希望の火』への祈りが込められました。  
この後、1週間にわたって、平和をテーマにした映画上映、対話、レクチャー、ピクニック、異宗教間、時平和の祈りなどが、市内各地で開かれました。アースキャラバンの『希望の火ワークショップ』も行われました。  
また異宗教融合イベントでは、『希望の火』と共に、様々な宗教と国籍を持った人が交流、違いを超えて絆を結ぶための行動を、共に考え、語り合いました。そして、アースキャラバンのフラッグに、それぞれの母国語で祈りを書き込みました。  
「真実の対話が相互理解を生み出すように」(フェルブルッゲン副市長)

京都タオサンガセンター

9月15日に京都タオサンガセンターで、写真展を開催しました。パレスチナの状況をほとんど知らない皆さんの方たちが、熱心に観入っていました。その姿をみて、事実を伝えていくこの意義を強く感じました。



12月3日(木)〜6日(日)の4日間。滋賀県の日野町で、パレスチナ写真展を行いました。会場は、築100年を超える「古民家 da n a」。お母さんと子どもなど、地域の方も多く訪れてくれました。5日(土)には、お話しも開催しました。パレスチナについて全く知らなかった方も多かったようですが、「いつか行ってみたい!」という多くの声を聞くことができました。

パレスチナ写真展



福島県のアウシュヴィッツ平和博物館でパレスチナ写真展が開催されました。  
館長の小淵真理さんからメッセージをいただきました。掲載させていただきます。

アウシュヴィッツ平和博物館企画展示室  
「ガザの一風景」— 生存への権利 — 写真展

当館では7月9日〜9月28日、アースキャラバンさんの厚意で「ガザの一風景」写真展を開催しました。なぜアウシュヴィッツ平和博物館でパレスチナの写真展?と聞かれることがあります。私はこう答えます。「私達の施設だからこそ、開催しなければならぬ!」ホロコーストの受難を生き抜いたユダヤ人が戦後イスラエルを建国し、その後パレスチナ人に対して何をしているのか... 国や国籍だけで解決できる問題ではありません。  
ユダヤ人なのかパレスチナ人なのか? 二度と同じ悲劇を繰り返してはならないと私達日本人にも問われている問題です。

認定NPO法人  
アウシュヴィッツ平和博物館  
館長 小淵真理

滋賀県日野町

パレスチナ写真展開催募集中

報道では知らされていない、パレスチナの状況を、現地パレスチナ人カメラマン達が写しています。写真展をご開催いただき、パレスチナの現状を人々が知るきっかけを作っていただければ幸いです。



募集要項

- 写真&写真点数
  - [1] ガザの写真家たちの作品...37点
  - [2] ハイサム・ハーティプ※の作品...22点
- ※ヨルダン/川西岸地区ビン村の写真家/ジャーナリスト
- 写真サイズ等 B4サイズ~A1サイズのパネル型(厚み5mm)
- 貸出料 1週間: 3,000円  
1ヶ月: 10,000円 (送料はご負担ください)
- その他 募金箱の設置、写真家たちへのご寄付もご協力お願いいたします。

